



## 持続的に成長する情報基盤の構築と運営

尾家 祐二<sup>1</sup>

工学は、現代社会の基盤の形成に大きく貢献し、私達の生活に深く浸透しています。そして、その進歩は著しく、教育の点でも、その質の多様化ならびに教えるべき量が増加しています。とりわけ最近の情報・通信分野における技術変革は目覚しく、その中であって、教育・研究のための最先端の基盤を構築、管理および運用することは重要かつ多くの労苦を伴う事柄であると考えます。

私は、平成15年度～18年度の間（2期4年間）情報科学センター長を務めさせていただきました。この間の著しい変化の一例としては、戸畑、飯塚、若松の3キャンパスを相互接続するネットワークを、従来の100Mb/sから100倍の速度である10Gb/sの超高速ネットワークに置き換え、大学間相互接続ネットワークであるSINETには1Gb/sで接続される環境になりました。

情報科学センターは、学部・大学院における教育・研究を支援する組織であり、情報科学センター規則において示されているように「情報科学に関し、九州工業大学における教員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設」を整備し、その運営管理を行い、情報処理基礎教育及び情報処理専門教育の支援等を行うことを業務としています。情報科学センターに期待される役割は、上記の情報・通信の技術革新ならびにその普及とも関連し、多様化してきています。センター設立時は、計算機システムに関連する業務が主でしたが、その後ネットワークに関連する業務が増大し、さらには、情報セキュリティーおよびキャンパスの情報化全般に関連する事柄への協力依頼が増大しています。任期中には実現できませんでしたが、新たな業務への対応を円滑に行うための何らかの組織改革が必要な状態にあると思います。

最先端の情報基盤を導入し、利用者がそれを日々支障なく利用できるように、センター教職員は熱意を持って日々の管理および運用業務を遂行しています。センター長として大変誇りに思うとともに、感謝しておりました。また、大学の情報基盤の持続的な発展のためには、センターの教職員だけでなく、大学全体の教職員の方々のご理解とご協力が必要であることは言うまでもありません。引き続き今後ともご協力よろしくお願いいたします。センターの運営にご理解とご協力いただきました皆様方ならびにセンター教職員にお礼を申し上げまして退任の挨拶とさせていただきます。

<sup>1</sup>電子情報工学科 教授 oie@cse.kyutech.ac.jp